

<p>事業名</p>	<p>ほっぷ (共同生活支援事業所)による、災害発生時の、発電拠点としての太陽光発電設備・蓄電池導入事業</p>	<p>関連するゴール</p>	
<p>取組の概要 (ポイント)</p>	<p>横浜市内には障害のGH(共同生活援助)が200カ所以上あります。その多くが借家で運営しており、借主との契約は屋根に穴を開ける工法では保証が継続出来なくなってしまいます。今回の設置では屋根をガルバリウム鋼板カバー工法で行うことにより太陽光パネルを掴み金具架台で設置することにより穴を開けない工法で設置できるため貸主との保証は継続が出来ます。</p> <p>今回、このモデルが実現できると今後、GHでの太陽光発電設置普及が進み、GHで自然エネルギーの活用による災害拠点（電気のおすそわけ）を行うようになれば、3.11の時のような混乱は少なくとも減災されるといえます。</p> <p>また、拠点機能を高めることで自助共助が成立していくと言えます。今後、町内会への説明やチラシの配布を実施し、福祉施設におけるまちづくりへの役割を展開していきたいと考えています。</p>		



コーディネーター
荒島 豪

本太陽光パネル設置工法は、市中での太陽光発電の普及に寄与し、かつ災害拠点（電気のおすそわけ）となることで、地域の災害対応力の向上につながり、こうした拠点拡大が「持続可能な社会の実現」につながることから、引き続き積極的に取り組まれることを期待します。